20世紀都市遺産　プロジェクト
The Urban Capital in 20th Century Project

Urban Design Lab Projects 2015

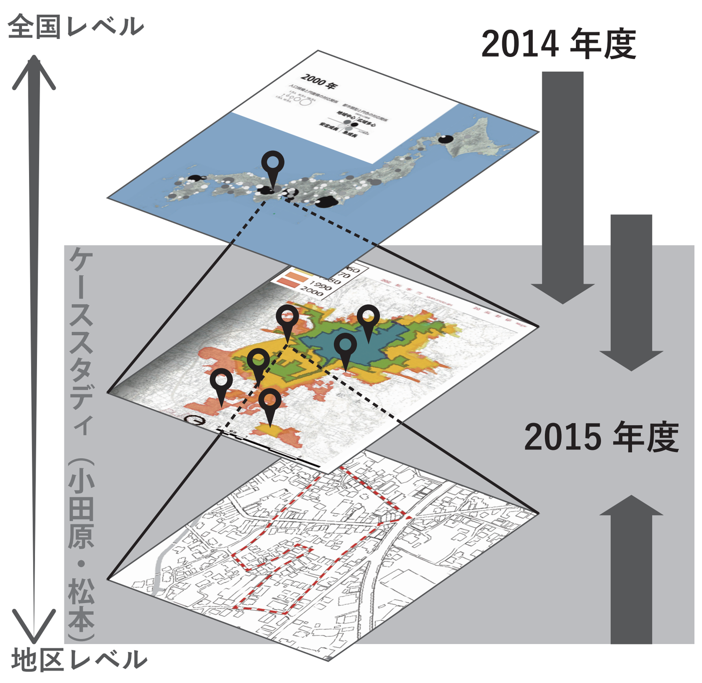
使い続けるべき市街地の評価と更新手法の理論化

【プロジェクトメンバー】
中島伸　（工学系研究科都市工学専攻　助教）
児玉千絵（同　博士2年）
渋谷政秀（同　修士2年）
髙橋舜　（同　修士2年）
河合孝哉（新領域創成科学研究科　修士2年）
王誠凱　（工学系研究科都市工学専攻　修士1年）
富田晃史（同　修士1年）
森下暢彦（同　修士1年）
【共同協力研究者】
渡辺定夫（東京大学名誉教授）
西郷裕之（市浦ハウジング&プランニング）
平井充　（住宅・都市問題研究所）
谷口雅彦（株式会社都市環境研究所）
兼森毅　（株式会社都市環境研究所）

プロジェクトの概要

近代化後、急激な人口増加・都市成長を経験したのが20世紀という時代であったが、そうした100年間に形成された市街地のうち、今後の人口減少・都市縮退の時代においても使い続けるべき市街地――「20世紀都市遺産」を評価し、理論化を試みることが本プロジェクトの目的である。

2年目の2015年度は、ケーススタディを通して市街地の物的環境をより詳細に分析し、都市更新のための計画に適用可能な都市ストック評価の視点の抽出を進めた。



2015年度活動履歴

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

- 現地調査都市選定・事前調査
- 調査後分析・とりまとめ
- 小田原調査
- 松本調査
- 全体研究会：第1回　第2回　第3回　第4回　第5回

2015年度の取り組み

■ケーススタディによる評価軸の抽出

2014年度の成果である都市成長類型をもとに、より詳細な市街地形態を考慮した都市ストック評価の理論化を目指し、松本市を対象としてケーススタディを行った。

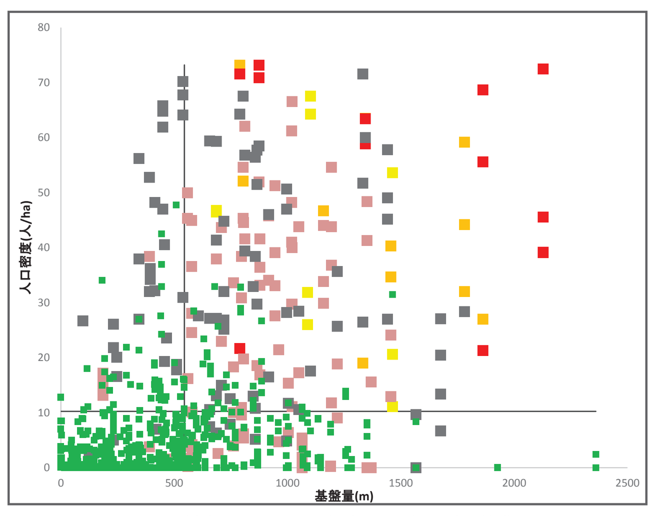
[松本市概要]

人口：約24万人　面積：約980㎢　特例市/新産業都市/非戦災都市

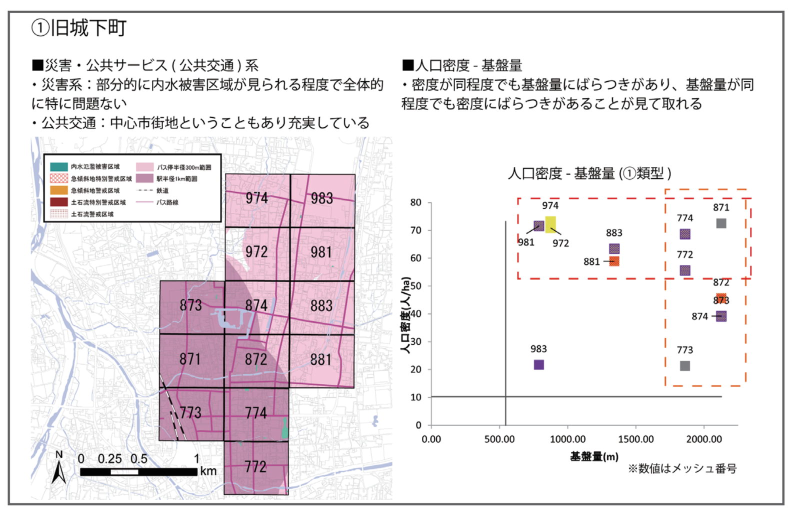
周囲の大都市から比較的独立し、松本城を中心に扇状地に広がる城下町である。県内では長野市と並ぶ大都市であり商業・工業の中心である。

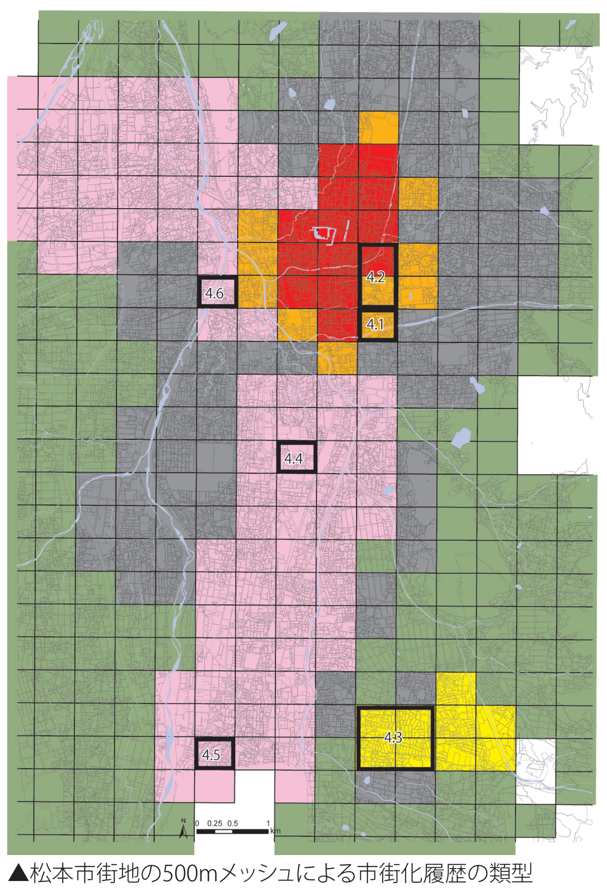
ケーススタディ①　マクロ定量分析

まず都市成長履歴をDIDや事業史などから概観した。その上で、密度や基盤量・容積率・交通利便性・災害危険度・立地など様々なGISデータを松本市全域500mメッシュと重ねて分析を行い、市街地の類型化と形成要因となる指標の抽出を行った。



▲メッシュごとの基盤ストックと密度の関係分析（例）

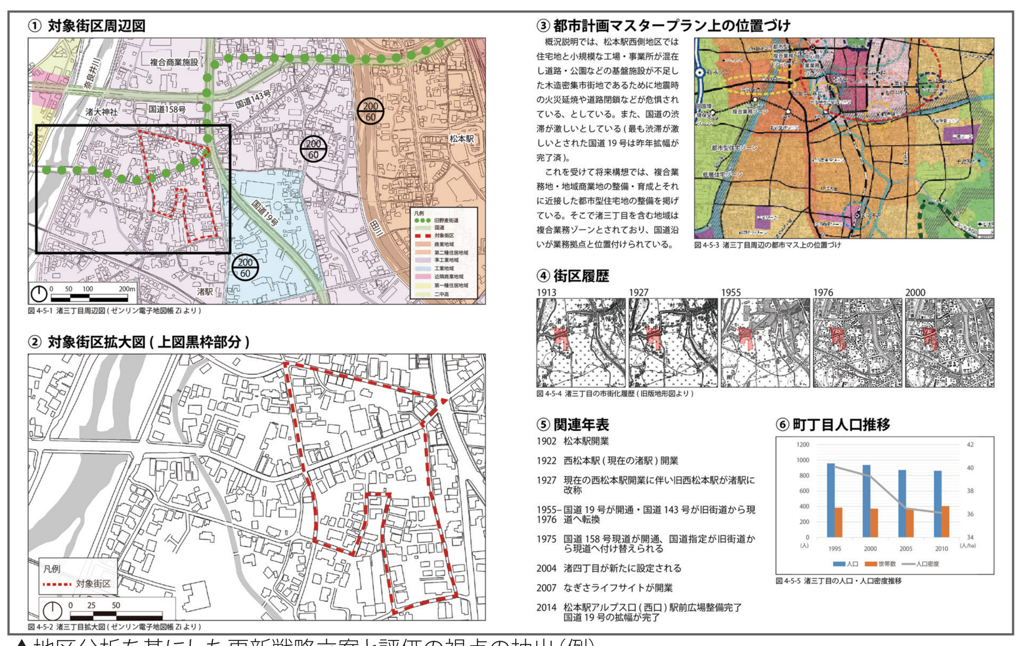


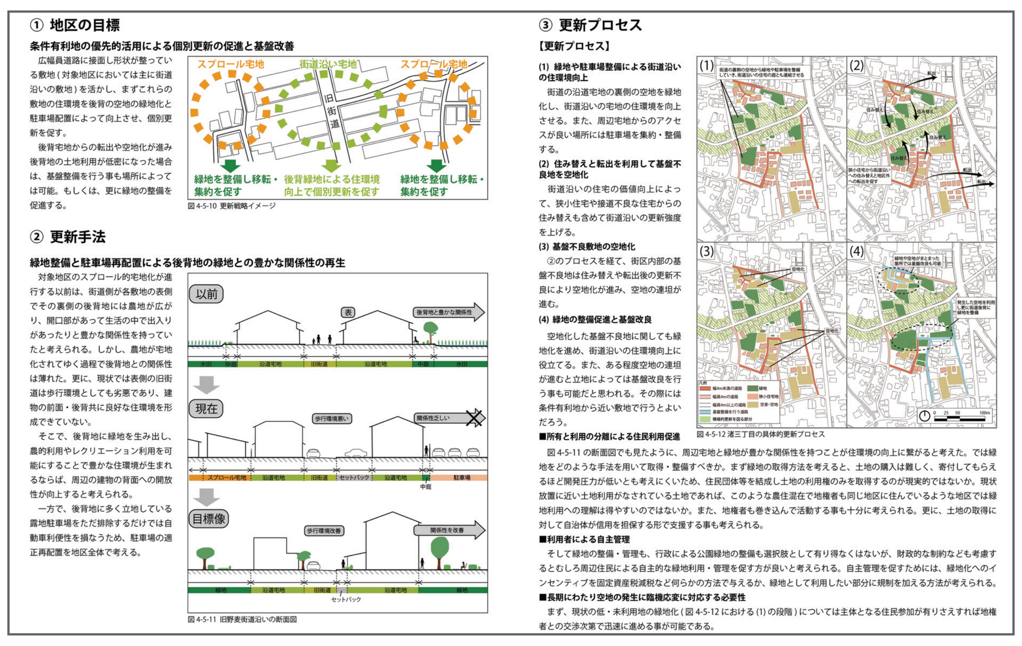


▲松本市街地の500mメッシュによる市街化履歴の類型

ケーススタディ②　個別地区空間分析

①で作成した市街地類型より街区単位で対象地区を選定し、市街化履歴と空間形成実態を各種文献や現地調査などから分析し更新予測などを行い、「城下町縁辺部の基盤整備」や「農的インフラの都市計画視点からの活用」など空間から見た市街地評価の視点の抽出を行った。





▲地区分析を基にした更新戦略立案と評価の視点の抽出（例）

■全体研究会

実践的な計画理論化研究にあたり、研究としての理論的視点だけでなく実務的視点からの分析・計画技法を学ぶため、共同協力研究者と定期的に意見交換を行った。

▲共同協力研究者との計画論や研究の方向性についての意見交換

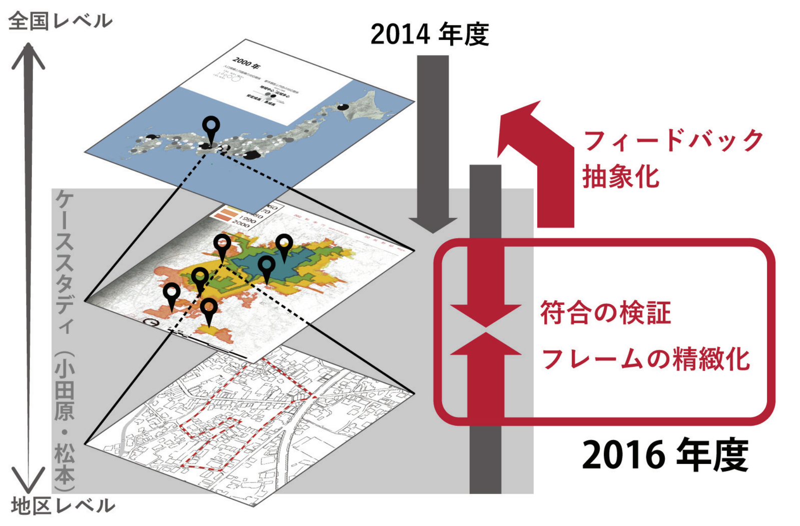
■現地調査

ケーススタディを行うに当たって、特に②の個別地区空間分析において実空間を正確に把握するため、まずプレ調査として小田原市で現地調査を行い分析フレームを構築し、その後松本市で現地調査を行った。

▲小田原市を対象としたプレ調査の様子

▲プレ調査のフレームをもとに行った松本調査の様子

今後の展望

当面は、引き続き松本市全体分析による市街地類型の精緻化と、個別地区空間分析結果との符号の検証を進める。そのうえで成果を基に松本市と意見交換を行う。

その後は、評価の視点として浮上しつつある個別テーマを、他都市への適用も含め更なる検証と抽象化を行い、「20世紀都市遺産」としての個別評価軸を知見として得ることを目指す。